

昭和18年12月1日（水）

昨常会に、寄附金問題に付き班長より衆議に諮（はか）りしに、上本氏等の反対により受領せざることになる。従って再び持戻りしも、更に町内会長に諮ることにし、少時保管と決せり。此の夜より夜番することになり、上本氏長谷川氏等、籤に当たる。弁当屋にて夜番連に饗応せし由。夜報告物にて多忙。坊や余り元気なし。気管枝炎と認む

昭和18年12月2日（木）

快晴の空模様。此夜ミワさん夜番の処、女子は不適當として男子に変更。長谷川氏今日も出動の由。班長さんより承知し余出動の肚を決め、其の旨通告す。乃ち余、丸久さん、溝口さんの3名にて廻ることとなる。此日白木崎、城井両局長臨局。梅の井別館に案内す。附近会長数名集合。切手請求と受取には、ミワさんと坊やを連れて行く。晴れなるも風寒し。飯りに余坊の手を取り行かせて、別に嫌がりもせざりし。此夕方大阪に電報して、5日出発不能の旨通知す。

昭和18年12月3日（金）

昨日に反し風漸く寒し。曇り勝ち。夜廻りは12時過ぎ、1時30分、2時30分の三回定時に出発。15分間を要す。余は事務室にて仕事す。丸久さんより二回目に、余を庇護して、兩人にて廻るからとて余に早く寝よと云ふ。余は之を退け一緒に廻ることとせり。三回目を終わる頃、糸永さん防空主任を以て単独に巡回。余り明るき燈光の家に注意しつつあり。朝3時に便所行き、二時間寝る。森田さん5時起き出て、勝手にて火を起こし居らる。余一旦衣を更めしも、勝手口消燈と共に、再び脱衣洗面せり。

夕刻8時に寝る。

昭和18年12月4日（土）

愈々冬の面影となる。土曜日とて切手類請求せず。資金請求仰せ付けられ出発す。降雨。林の乾し物濡るる様子。家内には誰も居らず、乾し物取入れて遣る。雨は賑る頃は歇む。時々霽れる。

昭和18年12月5日（日）

晴れ。坊や午後より神様に連れ行かる。朝も9時神詣で。朝飯10時過ぐ。諸蒸し貰ふ。腫れ癒らず。新聞は夕刊を廃止することとなり、朝刊のみ1日より配達さる。消耗品現在調書作成、未完成の儘。

昭和18年12月6日（月）

曇り。切手請求及び受取にも行く。年末手当到着。気温割合暖かなり。無烟炭火鉢事務室に持出す。ガラ12俵森田さん、8俵西野氏より受取る。搬入料1円50銭支払ふ。

昭和18年12月7日（火）

丹治氏より、書留10円送付越せるに対し、巻柿を求む。呼子、隆昌院小僧君得度式、成子さん参列したるものと認む。風漸く寒し。

昭和18年12月8日（水）

朝未明、突如空襲警報。遮断幕を下ろし仕事す。雨、雪を交（まじ）ゆ。無烟炭焚く。本年木炭の交付なく、煉炭の交付を認められたるも、命令でなく各箇対手商店の諒解の下に取運ばることとて、頗る窮屈を免れぬ姿なり。掃除は降雨の為中断す。演習は夜明けと共に終了を告

げたり。降雨は7時前後一時的にて、概して曇りにて終始す。頃日坊や連日入湯。余の湯煖房にて毎朝足を洗う。此日、年末慰労金発令。昨年より多額。外に臨時手当の交付。給料の三割分あり。

昭和18年12月9日（木）

朝寒風、耳痛し。快晴。10時記念スタンプ押捺（おうなつ）して貰ふて、公園に連れて行って貰ふ。販らぬと云ふ。暖かにて気持ちがよくかったものらし。富士パンにてコーヒーとパンを食べて販来す。ラジオ修理6円とらる。荒巻さん1時間弱早出、掃除をして下さる。

昭和18年12月10日（金）

此の日切手請求。8月以降3千3百円は3千百円正当。従って毎月二百円、都合八百円分超過請求に付き、今月全額を一分引きとして処理方来照あり。此日六百円分、一步引きとして請求せり。請求受取共、余行く。午後5時頃成子さん、喜代子4才を連れ来宅。恰度牛肉を求め置きたる為、御馳走出来る筈。夕食は持参されし為、翌朝に譲ることとなる。曇天。

昭和18年12月11日（土）

快晴。鋤き焼。余は諸と残り飯あり、之を食ふ。成子さん市内見物、ミワさん案内。買物して販り、午飯を抜きにして零時の汽車にて出発。福吉に帰り、15日大阪に帰らるる筈。此の夜早く寝る。ラジオ再び診察に持行かる。

昭和18年12月12日（日）

朝ミワさん風邪の気味にて遅く起きる。朝飯10時を過ぐ。

曇り。ミワさん坊を連れ写真を受取り、公園に遊ばし3時過ぎ帰る。夕、うどん。明日より2日間、防空演習予備訓練を行ふ。道子より小包。人参餡、坊の冬帽足袋、ミワさんへ下駄、お腫の薬等。ミシン屋来たり補修して行く。糸が太く針と釣合いがとれぬ為と、油欠乏に由る故障と判明す。坊や元気になる。気管枝、恢復せしものと認めらる。

昭和18年12月13日（月）

昨の曇り勝ちの空に対し、今日は快晴。正午前八重子、秀樹智子連れ、蜜柑ミワさんに調達して貰ひ帰る。中条順次さん処にて餡入り餅貰ひ来たり、坊一ヶ頬張る。智子付き纏ふ。7時半より常会。余出馬を約す。ミワさんは岩尾さんに出馬を促したるも、之を屑（いさぎよ）しとせず、余自ら出馬を決意す。此日は訓練の為時間を費やす。朝甘藷頂く。夜はミワさん手紙書き。道子に小包は今朝発送す。

昭和18年12月14日（火）

朝の間快晴。月は一兩日来明朗。切手二百円請求。前日の六百円を加へ責任を果たす。9時より仕度を整ひ出勤す。但し何もすることなし。零時頃より警戒警報、次いで空襲警報。1時過ぎ駅前、島澤旅館に大型爆弾落下。1時半中止。2時頃より降雨、演習中止の儘終了。夕方吉富の某より野菜類持込む。蜜柑返禮に贈る。細長き小魚売り居る。ミワさんに話し求め、夜食の膳に上す。

昭和18年12月15日（水）

夜来気温上昇。朝降雨。街路掃除出来ざりし。間もなく

雨は歇み、次第に霽れ晴天となる。白木崎局長臨局。雲丹（うに）を土産に持来たり白酒を要望す。良助来る。会津は根雪となりし由。若松より嫁を娶りたるも、母親病氣看護の為、来春迎へに行くことに致せりと云ふ。北浦町に行く。夕食6時近くなる。次いで湯に行かる。暫く振りで坊やも湯に行く。今日暖か。事務室に朝火を入れたまま、夜も暖房を採らざりし。保線区、駅等に国債債券購入方ミワさん出張。5千、1万請求。ミワさん受取に行く。門司白木崎局長臨局。雲丹持来らる。白酒求めて呉れと頼まる。此日梅の井別館に泊まらる。

昭和18年12月16日（木）

朝来降雨、後次第に霽れる。此の朝、白木崎局長耶馬溪行く。午後4時頃飯るから、夫れ迄、例の白酒整え置き呉る様申出らる。此日請求、雨を冒して切手資金納付、更に午後受取に行く。葉書亡くなると云ふ。此の頃雨歇みかけたり。ミワさん栄町電話分室小遣い、眞鍋某が長吉酒場に勤務し居たる為、同氏に頼みたる由。此日宿明け不在とて自宅に赴かしめたるが、結局、数日後剩れば呉るとのこと。東郷局長も同様、各一升分510置きて行く。

昭和18年12月17日（金）

余の顔のお腫二ヶ処癒くなるや、更に後頭部に一ヶ所、右脚膝関節に近く一ヶ所出来、脚の方は動かす為、漸次拡張の度を加へ来る。畢竟食物の關係と認む。玄米食にて少食主義を実行すれば、腫れ物など消滅するを信ずるも、直に夫れが出来ぬのが悩みなる。呼子の隆昌院より小包贈り越せり。スルメ11枚及び念珠一ヶ。スルメは上

田谷地に遣ることに発案さる。仍って葉書に柿の礼状と共に、小包発送の旨、及び近況通知せり。小包は明日発送の手配す。

昭和18年12月18日（土）

此の朝小包梱包、駒次宛て発送30。雨に濡れ街路掃除不能。後晴天となる。夕、南瓜、里芋、小豆等にて砂糖を加へて頂き、飯は食べざりし。葉書一万請求。半分に削減さる。葉書在庫なしと悲鳴を揚げらる。六千に交渉して正午受取に行く。坊やも来たり公園に行かる。脚屈折の都度、痛み甚だし。澄子も同様股の辺りにお腫が出来、切開して漸く跛行（はこう）は直りしも、猶数日通院の要ありとあり。澄子には瘍（できもの）と称するもの、余のは何と命名するや。駒次宛て葉書も今朝に持越し、10時頃漸く発送せり。此の朝、眞鍋小遣い来局。昨日と同様の挨拶あり。なかなか行き届いた人物と見受けたり。夜早く寝る。

昭和18年12月19日（日）

晴なるも風寒し。午前中一度ミワさん外出。坊を負ふ。肩痛しと悲鳴。更に午後より横田に、老母の片身着物を要求。牛肉は隣保班より百匁分配さる。半分横田に遣る為、持って行かる。手当金到着。明日分配方手配す。此の朝、横田政恵さん来る。坊や昨今食欲旺盛。蜜柑十位、飯は数碗を喫す。胃腸を損なわんことを惧れ、注意するも食う丈は食うらし。

昭和18年12月20日（月）

快晴。岩尾さん令兄嫂（あによめ）女兒分娩、休暇申出。

前田さん窓口事務に当たる。余の顔面左頬にも叢爾（そうじ）たるものあり。漸次噴出の恐れある如し。加之、後頭部の腫れ物は頑癩、首にまで移行せんとす。思い切りて、木下主事に電話にて外科の名医を尋ぬ。京町山田可ならんとのことに、意を決して医かかり行く。ミワさん同行。山田医は今直ぐ来いと云ふ。3時頃故、其の俣、徒歩にて跛行す。脚の部及び後頭部切開す。微菌の経路は束子（たわし）にある如し。一燈園西田先生の話が出づ。販りは更生車に乗る。7, 50かかる。夜早く寝る。うどん頂く。医かかり行き不在の折、坊独りで窓口保険の机から広告用紙を取出し、散々にもみくちゃにす。此日、葡萄菌の注射を幾本かやる。手当金到着分配す。

昭和18年12月21日（火）

快晴。朝3時起床。医の忠告に従へ、払拭（ふっしょく）清浄のことを止む。午後1時、更生車に乗り医かかり行く。注射数本6, 30、不足1, 30は明日持行くこととす。坊二回、小便寢床に漏らす。横径路傍に乾かしたるも半乾きの俣日没す、否日影に入る。隣保班用証券、夕方持行く。遅延せり。切手請求多数。二、四銭欠乏。三十銭残40となる。葉書在庫なしと聞き、森久等夜も毎来局。前後九百持行く。ミワさん誕生日。夕食味飯頂く。

昭和18年12月22日（水）

冬至。暖かにして、昨日も殆ど室内火気を要せず。身体を拭ふこと例の如し。ミワさん余済む頃起き出す。束子使ふかと質す。余使わぬと云ふ。実際使ったもの。昨坊、夕方水沢山飲み敢えてやめず。エキスを嚥む。今朝別段のことなく切手請求に跟従す。今朝電話にて逓信局長来

中に付き、接見方申越しあり。栄町長に毎日医師かかり療治中、失礼ながら出席不能の旨、申遣る。併し逡信局長は遂に中津に立寄らず、通過したるのみ。下り列車にて、門司方面より大分方面に向かわれたる如し。例に依り、1時より厚生車にて医かかり行く。5円にて1円30銭の不足。此分借用。繻帯洗って呉れとすることに持飯り煮沸して持行く。夕食南瓜を煮て下さる。冬至に南瓜を食ふことは、土用日に鰻を食ふが如き迷信に出づ。

昭和18年12月23日（木）

晴れ。厚生車一時前に来る。医者未だ午餐中らし。少時俟つ。車夫、飯食ひに販る。20分計りして販来。合計4, 50、外に前日分1, 30。医師は、膝の部は根が七つある「ヤワタ」の大蛇みたようだとあり。夕食6時。カレー人参、馬鈴薯入り小麦粉なし。片栗粉代用。余の万年筆と認印所在不明。坊やのせいらし。気温暖か。蚊が出掛け初む。7時過ぎ就寝。

昭和18年12月24日（金）

朝降雨あり。此日も一時前厚生車来たり。車夫飯食べに販る。4, 90医療代に支払ふ。曇天、多少寒くなる。葉書八千請求。例に依り四千に削減さるる積もりなりしに、要求数交付せし為、搬出に困惑し、前田さんに図り自転車にて運びて貰ふことを依頼せしも、自転車は大型で乗り切れぬとて、荒巻さんと兩人を加えて手に提げて持来さる。木炭一俵、栄町にて分配用として到着の通知あり。

昭和18年12月25日（土）

大正天皇祭。昨6時過ぎ電報あり。26日は日曜なるも、

平常通り窓口事務は取扱うこととなれり。急に前田岩尾両氏に速達発送す。荒巻さんに、販りに中津局に差出す様依頼せり。此日、山田医は午後休診とありしを知らず、3時近く行き却って待たさる。恰度退院者あり。医師が自宅に於ける取扱方に付き注意を与え、一時間かかる。3, 50銭、注射一。厚生車待合い賃を要望せしも、前例を楯にして遣らざりし。

昭和18年12月26日（日）

平常通り取扱ふも、取扱は僅少なりし。11時半行きたるに数名待合室にあり。車は返し電話で呼び寄せたり。道（さすが）に、脚部も腫れ引き軽快の感あり。頭の方は一層癒くなる。夕食3時前、弁当薯にて済ます。午前中快晴、午後曇り。東京へ蒲鉾三、巻柿九、今朝小包にて発送せり。医療3, 50。

昭和18年12月27日（月）

此日3時徒歩にて出掛く。注射もやらず、1, 50処置料だけとる。澄子より余の病気の経過を質し来る。葉書で返事出す。曇り、寒し。

昭和18年12月28日（火）

請求葉書四千。ミワさん取りに行く。餅屋に四疋（キロ）搗いて貰ふ。56銭取る。道子より葉書。上田谷地より干し柿を少々送って貰ひ、仙台の小宮さんに遣った。其の上田谷地への礼に「干しあみ」をやりたい。求めて送ってくれと云ふ。青海苔でもよいとあり。其の前、お婆さんへの香奠として40円贈って来た内、20円そちらに送るとて、現金を書留で送ってきた。栄町長臨局。酒五合、糯

米七合、殿町から送って呉れる筈になって居ると云はる。
夕食6時20分。医者1, 50。曇り勝ち。

昭和18年12月29日（水）

昨下郷局長、五円印紙14枚立替えやる。今回は一札入れさす。本日午前中に返房の筈なるに、遂に其の事なし。快晴なるも風寒し。明日より医師午前中1, 00。餅受取り来らる。箱二重持行き、一ヶは穴箱の俣、さても少ないことよ。煉炭の配給に付き、島沢へ行かれ、後電話にて交渉。小倉より一ヶ月分28ヶ送付を受く。殿町垂水の母堂来局。酒五合、糯米七合持来る。母堂は遮蔽幕に付き、未だ受領証を送付せず。よい加減の挨拶をして、欺瞞不誠意を重ねつつあり。到底余に面接し能わざる妖物なり。然も洒蛙々々（しゃあしゃあ）として来る良心の呵責なき代物なり。

昭和18年12月30日（木）

（糯米以下は本日に属す）。雨天、室外は暖かし。繻帶煮沸を怠り、巻いた儘持行く。切手請求七百円。処が前請求八百円を加算し居らざりし。第一次分に算入するものの由。結局62円過剰となりたり。余医師に行きたる販りに、局に立寄る。阿部さん居る。下郷局長の非常識振りを話す。ミワさんより電話あり。中卯にて三百円債券代、十七銀行にて受取ることになり居る由。明日大掃除して貰ふこと、うどんを馳走することに計画せり。佐世保光子より書留にて、三円香奠送付越すと同時に、緑より子守りとしては前借りして夫々他に奉公し居る。三月になればやっても差支えなしとあり。寿夫は一等兵となり、折尾に居ると云ふ。弁当屋から薯弁数ヶ（20銭）づつ求め、薯

にて夕飯を済ます。

昭和18年12月31日（金）

午前中曇り、午後晴れ。11時35分発、医かかり行く。駄に出来た新しき腫れ物を膏薬つけ1, 50とる。昨日は一円にて済む。昨隣保班より章魚（たこ）、昆布、ローソク五六本等配給を受く。此日大掃除をして貰ふ積もりにて、うどん沢山馳走さる。物数計算にて相当時間を費やし、掃除はお座なりとなる。我等のうどんはどろどろになり甚だ不出来。局員の分は上乘の出来栄えとミワさん自称す。